

ふるさと夢とやま

No.30

食と農とむらを考える情報誌

清水えばそば峠



🔥 ふるさとウォッチング

富山市八尾町高善寺集落
南砺市利賀村坂上集落

🔥 富山県ただ今、「園芸振興」真最中

🔥 訪ねてみよう棚田のあるまち

滑川市・魚津市・黒部市・入善町・朝日町いちおし編

🔥 農業用水でクリーンなエネルギーを作ろう!

🔥 カモ親子の農村日記 五十玉用水(高岡市)

🔥 広がる、地産地消運動!

🔥 越中とやま 食の王国フェスタ2012

ウォッチング

01

自然と共生する地域づくり

富山市八尾町の北西部に位置する井田川沿岸地区は、かつて、井田川流域農地三千ヘクタールの大半が常に水不足に悩む一方、ひとたび氾濫すれば旧婦中町に及び五千六百ヘクタールで水害が発生し、住民にとって、水との戦いに苦しむことの多い地域でした。

このような苦難の歴史は、先人たちの五穀豊穡と自然との共生を願うひたむきな姿勢と、粘り強い取組みによって克服されてきました。

合口用水とピオトープを守る会の取り組み

水と親しむ環境教育の場づくり

絶滅の恐れがある生き物を救おう！

高善寺集落では、地元の小学生と一緒に、ほ場整備前に実施した「田んぼの生き物調査」によって、ホタルが舞い、蛙が合唱し、小川にはドジョウや小魚が生息する希少な生態系が確認されてきました。この結果をふまえて、平成二十三年、県営ほ場整備事業の環境配慮型水路づくりに併せ、ピオトープが造られることになりました。

生き物調査の結果は、パネルにされ、小学校の教材に活用されることもに、地域のイベント等でも広く展示されました。この調査で見えられた貴重な生態系を保全し、学習の場としての地域資源を残そうとの気運が高まりました。整備されたピオトープは、今後、希少な農村地域の生き物の保護と、田んぼや用水に親しむ体験学習の場として活用されていきます。

▲井田川沿岸地区に広がる豊かな農村



ふるさと
富山市
八尾町高善寺集落



合口頭首工周辺を美の里保全に

井田川合口頭首工の構造は、水式のゴム引布製ゲート(通称ラバーゲート)ですが、完成時(平成四年度)には、国内最長の規模として注目されました。工事中はもとより、現在も毎年行われている施設見学会で見学者を驚かせ、ちょっと変わった風船夕ムとして人気を博しています。

今回整備された環境配慮型水路とピオトープは、この井田川合口頭首工や管理棟に近く、合口幹線用水沿いに位置し、水は年間を通して潤沢です。地区では、良好な維持管理も目的に、この合口頭首工の一角を美の里として保全していくこととされました。

桜並木の遊歩道づくり

最初の活動は、合口頭首工からピオトープまでの



合口幹線用水沿いを、瓦チップを敷いた遊歩道とし、桜並木にするための苗木を植栽することでした。地元の方や井田川沿岸土地改良区の役員による「合口用水とピオトープを守る会」の活動がスタートしました。

今後はピオトープを中心に、水生植物の花壇づくりとともに、案内看板やベンチも設置し、地元小学校とも一体となって、子供たちの体験学習の場としての活用を進めることとされています。



▲井田川合口頭首工(通称ラバーゲート)

体験学習を通じて

農業用水と水源林の関わりを知る

施設見学とサクラマス放流体験

農業用水の安定的な供給と国土の保全には、水源地域における森林が大きな役割をもっています。井田川沿岸土地改良区では、平成二十年度から農業用水源地域保全対策事業を実施してきましたが、昨年度からは、「土地改良施設見学と白木峰植樹」と称して、体験学習を取り入れた活動が行われています。

水の恩恵を受けている下流域の農家や地域住民の皆さんが、水源地域の現状や課題についてもつと理解を深め、「森林により涵養された農業用水」の有効利用を一層促進する活動として実施されています。

井田川の水源と称される白木峰において、広葉樹(けやき・ぶな・みずなら)の植樹、下草刈や添え木立ての活動を行っています。このような活動を通じ、水源林の必要性や重要性の理解が深まったと、毎年六十名の参加者からも高い評価が寄せられています。



▲白木峰で植樹に取り組む皆さん



▲「元気に帰っておいで」とサクラマスを放流

農業用水は田畑をうるおし、のどかな田園風景をつくりあげています。

また、私たちの地域を流れる井田川や地域用水は、私たち人間だけでなく、水辺の動植物にとっても大切な住まいでもあります。

井田川沿岸土地改良区の受益内には三つの小学校があります。これらの学校では、総合学習の教育の場として、施設見学会などの取組みを行い、用水や森林、そして豊かな自然の大切さについて学んでいます。



▼地元小学生の生き物調査



02

「利賀村の暮らし」を提案

「演劇の利賀」「そばの聖地」と言われ、全国にその名を知らしめた南砺市「利賀村」。現在は少子高齢化で、以前は約1500人いた人口も、半分以上に減少。生活そのものの「後継者」が不在で、地域活動の停滞が危惧されています。そんな中でも、「自分の農地は自分で耕す」のプライドを捨てず、70歳を迎えた今日も、「利賀百姓塾」の塾長として、地道な挑戦を続ける南砺市利賀村坂上在住の中西さんを訪ねました。



「出会いふれあい助け合い(結) そとと喜び」

平成二十三年、利賀村坂上集落において、「利賀百姓塾」の活動が始まっています。

棚田を保全し、都市農村交流による農業体験などの活動を通じ、農村の原風景を守るとともに、地区ならではの魅力を発信し、地域の活性化を目的とするものです。

春の稲の手植えから始まり、草取り、秋の稲刈り、八ヶ掛け、晩秋の収

そが、出会い・ふれあい・助け合い(結)・そとと喜びに繋がり、地域が元気になる。」と住民に声をかけ、地域の一体感を大切にされています。今後、体験者同志が自然に繋がるような仕掛けづくりを課題として挙げ、山村の豊かさで厳しさが育んできた「暮らしの技」と「人の繋がりを大切にする」利賀村のような暮らしを、体験者の皆さんに提案していきたいと、今日も汗を流しながら、農地を耕し、山を守っています。



▲利賀百姓塾 塾長 中西邦康さん

親から受け継いだ農地は、自分で耕す

「百姓塾」の活動などにより、集落内の棚田は美しく保たれ、富山県の棚田ガイドブックにも掲載されています。一方で、少子高齢化による後継者の不在が加速する中で、利賀村地域では、農業公社に農地を集約する対策が進められました。結果として、農地の荒廃はストップし、現在も幹線道路沿いの農地では米、そばの作付が行われています。しかし、その反面、住民の農業への「無関心化」が進み、子どもへの「継承」がされない農地が増加しています。

中西さんはこうした現況に、「景観を守ることを考えているのは、農村で息づいた『精神』や『技』が消えてい



▲利賀百姓塾 田植え作業



▲利賀百姓塾 稲刈り作業

くのではないかと、地域の現状に警鐘を鳴らしています。

中西さんは現在70歳。「まだまだこれから」という意気込みの中にも、様々な「不安」も残るそうです。

これからの地域農業のあり方を、地域住民を中心に、農業公社、行政、さらには交流活動に参加し理解を深める都市住民も含めて、もう一度考える機会が求められているのかもしれない。

利賀村百姓塾の参加者募集!

連絡先

中西邦康さん
南砺市利賀村坂上
551番地
電話:0763(68)2104



どぶろくまごたりんはいかが!

今年の7月、利賀村に新たな地域活性化の種となる「どぶろく」が商品化されました。名前は「まごたりん」。中西さんの祖父がお酒が大好きな方で、いつもお酒が「たりん、たりん」と言っていたそうです。そのお孫さんが中西邦康さんであることから「まごたりん」の名前がつけました。まごたりんの完成は、中西さんの根強い取組みと、周囲の仲間の協力による成果が形になった瞬間でもあります。



「仕上がったどぶろくの味は、爽やかでフルーティー」と、笑顔の中西さん。原料は、利賀百姓塾で、有機質肥料を使用した化学合成農薬を使用しないで栽培した米と、坂上の上流で湧き出る「鴻の貴水(こうのみみず)」を使用し、利賀ならではの味を目指したそうです。

「地域をもっと元気にしたい」という気持ちで、中西さんの様々な取組みのエネルギーの源。

平成二十三年三月に南砺市が「どぶろく特区」の認定を受けると、県食品研究所に二ヶ月間通い、今年六月にやっとの思いで酒造免許を取得されました。また、製造工場は自費で自宅を改造されました。今後は利賀村地域の飲食店に提供するほか、地域のイベントでも販売し、地域活性化を目指します。

「まごたりん」のお問い合わせ
中西邦康さん
電話:0763(68)2104



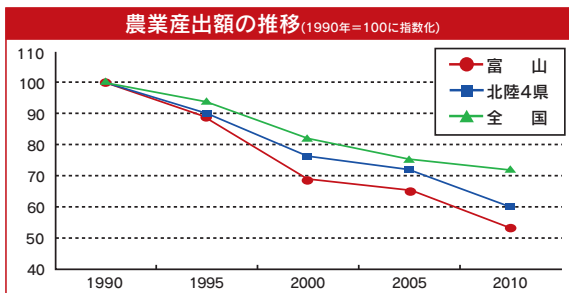
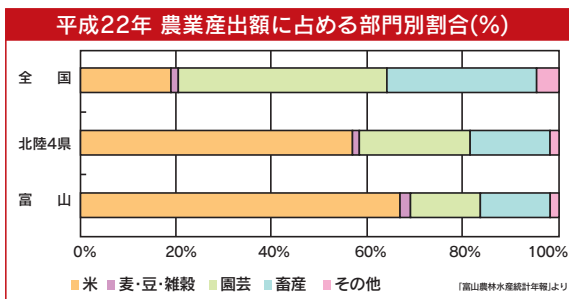
富山県
ただ今、

「園芸振興」真最中！

各農協で野菜の一億円産地誕生へ向けて！

稲作主体の富山県農業

富山県は、一級河川が五本、二級河川が二十九本走る豊かな水に恵まれた立地条件に加え、耕地の九十七%が水田として整備されており、全国一位の高い水田率を誇っています。そのため、本県農業は古くから稲作が主体であり、農業産出額の約七割を米が占めています。このような中、近年、米消費の減少に伴う米価の低迷や米の生産調整が強化されるなど、米を取り巻く環境は極めて厳しい状況にあり、米主体の本県農業の産出額は著しく減少しています。



農協や稲作農家が 大規模な野菜生産に挑戦

このような状況を踏まえ、県では、これまでも稲作農家に園芸生産を取り入れた経営の複合化を推進してきた結果、大規模稲作経営体による白ねぎやキャベツの契約生産などが取り組まれてきました。加えて、平成二十二年度からは、「一億円産地づくり支援事業」を実施し、農協が主体となった新たな大規模園芸産地づくりを支援していきます。現在、県内の十五農協では、それぞれの実情を踏まえ、「一億円産地づくり戦略品目」が選定され、目標達成に向けて作付拡大に奮闘しています。

農協名	戦略品目	農協名	戦略品目
みな穂	さといも・もも	いずみ野	えだまめ・いちご
黒部	ねぎ・にら	高岡	軟弱野菜・にんじん
うおづ	ばれいしょ・ねぎ	氷見市	ねぎ
アルプス	さといも・ねぎ	いなば	はとむぎ
あおば	にんじん	となみ野	たまねぎ
富山市	ばれいしょ	なんと	にんにく
なのはな	ばれいしょ・軟弱野菜	福光	プロッコリー・アスパラガス
山田村	りんご		

一億円産地づくりの 取組み事例紹介

となみ野農協

大規模産地づくりが平成二十一年秋から積極的に取り組まれています。特に、大規模な稲作農家や集落営農組織に「たまねぎ」の作付を呼びかけ、平成二十二年に「たまねぎ」を一億円産地づくり戦略品目に位置づけ、平成二十二・二十三年度には「たまねぎ」専用の苗移植機や収穫機械、大規模な選別調整施設が整備されました。しかし、県内では初めての取組みであったこともあり、最初は単収が低い



▲大規模稲作経営体が取り組むキャベツ栽培

など目標にはほど遠い結果となりました。

そのため、県や農協の技術指導者からなるプロジェクトチームが設けられ、技術実証ほの設置や県外先進地調査など、試行錯誤しながら新たな栽培技術が組み立てられました。そして、農業者と一体となった技術確立と生産振興が功を奏し、平成二十四年産たまねぎについては九十八戸・組織で七十八トン作付けされ、約一千八百トンの玉ねぎが七月～八月を中心に県内市場や中京、首都圏市場等へ出荷され、販売金額は一億円を大きく上回りました。今後、更に技術向上を図り、高品質生産と高単収に向けて、関係者の団結がより一層強まっています。

いみず野農協

いみず野農協では「えだまめ」と「いちご」を一億円産地づくり戦略品目に選定されました。特に、「えだまめ」については、もともと、管内において多くの営農組織が大豆栽培に取り組んでいたことから、大豆栽培技術と既存の栽培管理機械を有効に活用しようとする戦略品目に位置づけられ、更に、黒大豆のえだまめ品種を選定し、商品の差別化を図られています。「えだまめ」は、収穫直後からの鮮度劣化が早いことから、鮮度保持対策が極めて重要で



▲JAいみず野のえだまめ共同選果



▲いちご産地を目指すJAのいちご生産

す。そのため、平成二十三年度に、大規模なえだまめ集出荷予冷施設を整備し、収穫直後からえだまめの品温が上がりぬよう、低温管理が徹底されています。平成二十四年度のえだまめ作付面積は十二ヘクタールで、出荷量は約三十六トン見込まれ、七月中旬～八月中旬までの約一ヶ月間、県内市場を中心に出荷されています。黒大豆特有の「コク」と甘みが強い「いみず野産「えだまめ」は市場での評価も高く、県内の量販店等スーパーで販売されています。今後、更に生産が拡大され、より多くの県民の皆さんの夏の食卓にお目見えするよう期待されています。

県産野菜を店頭へ！ 食卓へ！

県では、このような生産振興に加え、需要の拡大を図るため、全農富山県本部と連携して、平成二十四年七月に富山市場内で県産野菜プロモーション会を初めて開催し、県内の大手量販店や青果仲卸のハイヤー、市場担当者を招き、県産野菜をPRしました。このような取組みにより、県産野菜に対する流通関係者の理解を深め、また、事前に出荷情報を提供することで、量販店が計画的に県産野菜を販売するなど、新たな需要を掘り起こす機会となりました。また、八月には県内量販店で「こやま特産大使」も加わって県産野菜のPRが行われ、消費者の皆さんに県産野菜を使った簡単レシピの紹介や試食販売が実施されました。県では、年々高まる県産野菜の生産拡大への期待に応えられるよう、生産から販売・消費に至るまで、関係機関と連携して、積極的に取り組んでいきます。



棚田とは 中山間地域の中でも急傾斜(水平距離20mに対し高低差が1m以上)の農地を指します。県内には13市町村約430集落に分布しており、自然環境を美しくむととも、その美しい風景は人々の心に安らぎをあたえてくれます。

A むろやまの **室山野**.....滑川市

東福寺野公園近くに広がる棚田景観

8号線又は滑川ICより主要地方道養輪・滑川インター線(51号)を養輪方面へ目指す。滑川市全体を望むことが出来る高台に棚田が広がる。近くの東福寺野自然公園からは、富山平野を眼下に日本海から能登半島まで眺望出来る。



B いけだに **池谷**.....魚津市

やまびこ営農組合が守る景観

富山市方面から国道8号線慶野交差点を右折して進むと、主要地方道金山谷・田方町線(33号)に至る。交差点を右折して5kmほど進み、松倉小学校前の交差点を左折して山道を進むと付近到着。付近には、いたる所に棚田が広がる。



C たもみ **田糲**.....黒部市

11月の布施谷まつりがおススメ

魚津市方面から国道8号線田家交差点を右折。一般県道福平・石田線(125号)を7kmほど進み、黒部市東布施トレーニングセンターに向かうように左折し進むと付近到着。11月に開催される布施谷まつりがおススメ。



D なんぼ **南保**.....朝日町

棚田の一部ではさわし柿用の刀根早生の生産も

入善町方面から国道8号線横尾西の交差点を右折。一般県道田中・横尾線(103号)を0.2km進み右折、一般県道山崎・泊線(102号)を2kmほど進むと付近到着。高台からの眺望が素晴らしい。



たづねてみよう 棚田のあるまち

滑川市・魚津市・黒部市・入善町・朝日町いちおし編

棚田MAP



朝採れ!

新鮮!

おすすめ 農産物直売所

棚田を訪ねた後は、地元朝採れ野菜をはじめ、新鮮な食材が数多くそろった各地の農産物直売所に立ち寄ってみよう。

①松倉もちより市

とれたての山菜や魚津の山あい栽培された旬の野菜の他、作りたての草餅は、ヨモギの香り豊かな人気商品。



●かんのん亭横(スーパー農道沿観音堂) 営 8:30~11:00頃 5~12月の日曜

②JAくるべアグリプラザ東 農産物直売所

新鮮野菜、そば粉、ヨモギ粉等を販売。地域団体商標取得の「黒部米」が店頭精米でき、米の製粉の請負も人気。



●JAくるべアグリプラザ東店内 営 8:30~18:00 通年(年末年始休)

③ふれあい直売小屋 よら〜れ

朝採れ野菜を生産者自らが販売。農家のお母さんが集まって活躍。生産者と消費者の交流も楽しみの一つ。



●国際文化センターコラーレ横 営 8:30~11:30 5~12月の土・日

④JAみな穂農産物直売所

入善、朝日の野菜と加工品の他、季節の果物も豊富。地元産の牛肉は売切御免。黒豆茶等JAオリジナル商品も続々登場。



●JAみな穂本店敷地内 営 9:00~17:00 月~金曜(土日祝休)

⑤とれたて入善まちなか屋

地元新鮮野菜、加工品の他、一般食品なども提供し、徒歩が移動手段の高齢者も楽しくお買い物。街中の賑わいを創出。



●入善中央駐車場 営 10:00~17:00 火~日曜(月休)

⑥なないろ朝市

地元農業者や加工グループ等が集い、新鮮野菜、加工品、魚の塩干物等自慢の産品を対面販売。なないろKANで休憩も。



●なないろKANもぎたて館 営 8:30~9:30 4~12月の日曜

⑦食彩あさひ お夕飯市

手づくり惣菜、漬物、おこわ、餅、押し寿司他、季節の新鮮野菜等の販売も人気。山菜の煮しめは絶品。お夕飯の一品に是非。



●朝日町農林産物加工施設 食彩あさひ 営 15:30~18:00 4~12月の土曜

農業用水でグリーンなエネルギーを作ろう!

電力も
地産地消

県内の取組み事例



実証実験入善町「水の小径」
最大出力3.6kW
(入善町上野)



常西公園小水力発電所
最大出力9.9kW
(富山市上滝)



臼中発電所
最大出力910kW
(南砺市臼中)

*出力10kWの小水力(マイクロ)発電でも、年間電力供給量11世帯分、CO2の削減量27tになります。



大家庄マイクロ発電所
最大出力5.0kW
(朝日町大家庄)

水力や太陽光、風力などの再生可能エネルギー源を利用した、グリーンなエネルギーの導入が推し進められています。

農業用水でも小水力発電の可能な場所が数多くあります



小水力発電とは

一般的には最大出力数十kW～数千kW程度(100kW程度以下を「マイクロ水力発電」とも)の小規模な水力発電の総称です。

小水力発電の特徴

- ①CO₂排出量が極端に少ない → 水の落差を利用するための発電時のCO₂排出量はゼロ。また施設設備の際のCO₂排出量も少なく済みます。
- ②くりかえし利用できる → 水本来の利用はもちろん、落差があれば繰り返し発電でき、再生も可能。富山には落差ポイントも豊富にあります。
- ③貴重な純国産エネルギー → 1年を通して豊富な富山の水を活かせるエネルギーです。
- ④環境負荷が小さい → すでに縦横に張り巡らされた既存の用水を利用するため、河川環境を大きく変えることなく、短期間で設置可能です。

農業用水を利用した小水力発電のメリット

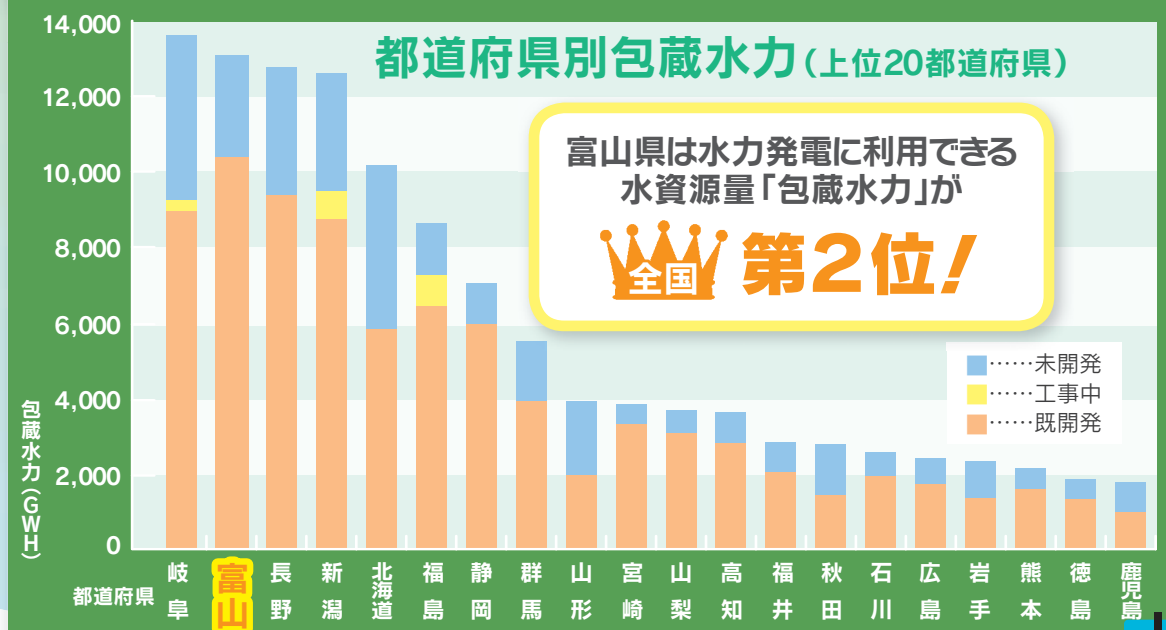
- ①水門やポンプなどの農業用施設の消費電力に充てるほか、余剰電力を売電することにより、農業用施設の維持管理費の軽減が図れます。
- ②農業用(園芸、保温・保冷施設等)や公的施設(集落排水施設、交流施設、照明等)に利用すれば、電力を地産地消することができ、災害時の非常用電源にもなります。

*農業用水を利用した小水力発電を行うためには、「電気事業法」「河川法」の手続きが必要となるほか、売電のための電気事業者との協議、農業水利施設の管理者との協議・調整が必要となります。

小水力発電が導入しやすくなりました

- 小水力発電の導入には、施設の建設費と発電規模(売電による収入)との採算性が大きな課題の一つとなっています。
- 2012年7月1日から再生可能エネルギーの固定価格買取制度がスタートし、一定の期間・価格で電気事業者が買い取ることが義務付けられました。従来は電気事業者との協議により10円/kWh程度であった買取価格が、平成24年度は20年間固定で24～34円/kWh(税抜、小水力発電の場合)に設定されました。

都道府県別包蔵水力(上位20都道府県)



かも親子の農村日記

水辺からふるさとを創る土地改良施設を眺めてみよう



五十玉用水 (高岡市)

豊かな湧水が刻んだ悠久の歴史



五十玉用水位置図

▲田園地帯をゆったりと流れる五十玉用水の清流 (佐野地内)

国道156号線と南郷バイパスが交差する高岡市佐野地区。郊外店と新興住宅が立ち並び、出来たての新幹線の高架橋が地区内を横切っています。都市化が進んだこの地区にあつて、その中を流れる川の水は驚くほど透明。ゆれる水草と走り抜ける小魚たちの影は清流の証。

その流れをさかのぼって住宅地を抜けると目の前に広がるのは彼方まで続く田園地帯。この地は1200年以上昔の東大寺正倉院の古文書にも記述が残る古くからのコメ作りの地。そしてそのころから変わらずこの地を潤し続けているのが、庄川の伏流水を集めて流れる五十玉用水なのです。



▲五十玉用水から玄手川に続く桜並木 (佐野地内)

水源は湧水

佐野地区を潤す五十玉用水の主な水源は戸出地域に噴き出す湧水群です。この地は大河川から遠く離れたやや小高い地帯でしたが、庄川からの伏流水が四季を通して湧き出しているので五十玉用水は涸れることなく流れ続けるのです。そしてその歴史は古く、約1200年前、「家持の時代」にさかのぼります。

万葉の時代から続く歴史があるんだね！



東大寺正倉院に残る古文書

かの万葉歌人、大伴家持が越中の国司として高岡に赴いたのは奈良時代中期の746〜751年。その頃の日本は聖武天皇の号令のもと、空前の国家事業「大仏造営」が進められている時でした。莫大な費用の捻出に朝廷は有力寺社・貴族の協力を仰ぎ、その見返りとして新田開発とその私有を認められた。743年墾田永年私財法。

越中の国において749年に四千町の東大寺の開墾私有が認められ、この時の開墾記録が「東大寺開田図」として正倉院に保管されています。その中の一枚「榎田野開田地図」に現在の高岡市佐野地区周辺が描か

れています。そしてここには祖父川と並んで現在の五十玉用水に相当する水路が記載されているのです。

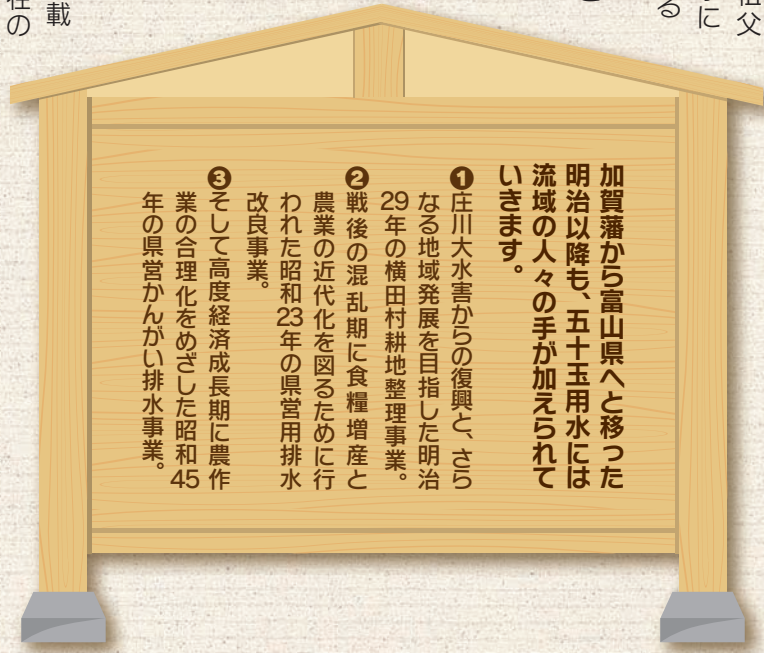
それまでは小矢部川沿いなどの低湿地を中心に進められてきた越中の水田農業。しかし家持の時代にはいよいよ広大な庄川扇状地に開墾の鍬が向けられるのです。そして、その開墾地を支えたのがこの地に湧き出す豊かな湧水を集めて流れる五十玉用水だったのです。

守り伝えられた恩恵

奈良時代にすでに古文書に記載された五十玉用水ですが、現在の形になったのは江戸時代初期頃と考えられています。

前田利長公が高岡の地に城を築いたのが1609年のことですが、その頃の高岡は洪水のたびに流路を変える庄川(千保川)に手を焼いていました。これを現在の位置に固定したのが1670年の加賀藩による松川除の築堤工事です。

この工事によって水害の脅威が去った庄川扇状地はさらに開発が進むことになりました。そして豊かな戸出の湧水を佐野・木津を経て横田・北島へと送る五十玉用水がこのころに完成をみるのです。



加賀藩から富山県へと移った明治以降も、五十玉用水には流域の人々の手が増えられていきます。

- ① 庄川大水害からの復興と、さらなる地域発展を目指した明治29年の横田村耕地整理事業。
- ② 戦後の混乱期に食糧増産と農業の近代化を図るために行われた昭和23年の県営用排水改良事業。
- ③ そして高度経済成長期に農作業の合理化をめざした昭和45年の県営かんがい排水事業。

豊かな湧水を次の世代へ、悠久の歴史を持つ五十玉用水は時代の要請に合せながら常に人々の手によって守られてきたのです。

また、近年、五十玉用水と玄手川は農業面に加え地域用水としてもその役割が大きくなってきていますが、豊富な伏流水により、「ミクリ」や「バイカモ」などの水草や希少川魚「トミヨ」が息できる水質も保たれています。私たちは、水に関わる先人たちの苦勞を後世に伝えるとともに、環境保全の大切さも忘れず、この豊かな湧水を守っていく必要があります。

土地改良広辞苑

「庄川伏流水」しょうがわがやうりゅうすい 岐阜県庄川村に流れを發する庄川において、富山県の砺波市庄川町金屋を扇頂として一級河川庄川から一級河川小矢部川に向かって形成された庄川扇状地で、その扇状地の砂礫層を流れる地下水脈が扇端部の下流域一帯で湧き出る豊富な湧水・自噴水をいう。

「JA高岡佐野支店横の湧水」 J A たかおかさのしてんよこのわきみず 五十玉用水の水源である庄川伏流水の豊かな湧水は、用水受益地内の各所でも確認できる。その一つがJA高岡佐野支店横の湧水です。夏でも手が凍るほどの冷たく美味しい水を求めてたくさんの人々が訪れる。

「トミヨ」富魚、止水魚 きれいな冷水を好み、日本では水温の低い湧水池やそれに近い淡水環境に生息している。

水質の変化や濁水の影響を受けやすく、絶滅の危機に瀕しており、美しい自然のシンボルとして保護活動が行われている。

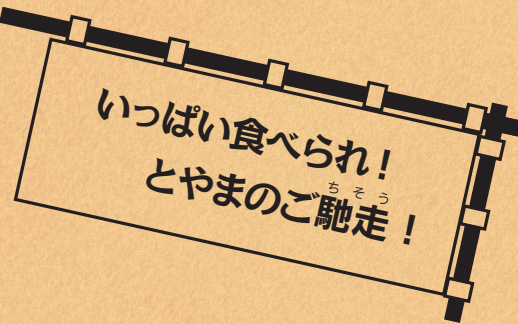
「ミクリ」みくり ミクリは沼沢地や流れの緩やかな水路に生育する多年生の草木。栗を連想させるような実実がなり、和名の「実栗」となっている。富山県では比較的広い地域で確認されているが、環境省の準絶滅危惧種に指定されている。

「バイカモ」梅花藻 バイカモはキンポウゲ科の水中生の多年草で、5〜7月にかけて、「梅花藻(バイカモ)」の名のとおり、梅の花に似た直径1〜2cmの白い花を咲かせる。水温15度以下、きれいな水のところにはか自生するので、清流の目安とされている。



トミヨやバイカモが 生息できる美しい 用水なんだ！

越中とやま 食の王国フェスタ2012



■日時 **11月3日(土) 4日(日)**
10:00~16:00

■場所 **富山産業展示館(テクノホール)**
※JR富山駅北口より無料シャトルバス運行

セントラルキッチン



NHK「きょうの料理」でおなじみ藤野嘉子さんによる料理実演です。(4日(日)実施予定)



「とやま食の匠・創作の匠」料理実演

「とやま食の匠」に認定されている料理人らが県産食材を使って腕を振ります。



市町村キャラクターも集合!クイズショー

ご当地のご馳走問題に答えていく参加型クイズショー。県や市町村のマスコットキャラクターも集合し、楽しくステージを盛り上げます。全てのクイズに正解された方には、おいしい富山の特産品をプレゼント!

<その他>

KNBラジオタイアップ企画
大ジャンケン大会
チャリティオークション



王国うまいもん市場

県内全域からイチオシの特産品が大集合!

- ます寿し ●米粉パン
- かぶら寿し ●りんご
- 鮎の塩焼き ●里芋
- みょうが寿し ●漬物
- はちみつ ●ワイン ほか

朝採れ軽トラ市

「軽トラ」で旬の野菜を大量販売。畑と食卓が直結するポリウムたっぶりの迫力と楽しさあふれる内容です。

ご馳走食堂街

地産地消のお惣菜の限定販売から、ジェラート、県内のおいしいメニューなどを販売。バラエティに富んだ「富山ならではの」味を味わえます。

王国屋台村

県内の有名・ご当地ラーメンや屋台ラーメンが集合。会場屋外ブースに登場!



オリジナル大福

KNBラジオ番組から生まれた「オリジナル大福」が誕生。富山県産食材を使った、両日限定の美味しい大福をおひとつどうぞ!

ぐるっと王国クイズラリー

富山の食についてのクイズラリー。解答者には、ガラポン抽選で富山の特産品をプレゼント!(各日・先着1,000組まで)



ふるさと体験工房

富山の特産品にふれる体験イベントが盛りだくさん。つくった料理はその場で試食! ふるさとの味が堪能できます。※当日先着順

取り組み紹介

富山の優れた食材や商品を紹介いたします。富山県推奨とやまブランド、Eマーク商品の紹介 など

【主催】越中とやま食の王国フェスタ実行委員会

(富山県、富山市、氷見市、富山県農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会富山県本部、富山県漁業協同組合連合会、富山県森林組合連合会、(社)富山県食品産業協会ほか)

【併催】第50回富山県農林漁業祭、第36回富山県米まつり、第42回富山県花き品評会、その他関連事業



おいしさ キトキト とやま産 広がる、地産地消運動!

食や環境に対する関心が高まるなか、富山県では「県民ぐるみで県産品を大きく育てる地産地消運動」を推進しています。その取り組みをご紹介します。

地産地消県民交流フェア2012

富山県が誇る素晴らしい食材、食文化に触れ、地産地消への理解を深めていただくこと、平成24年7月1日(日)、「地産地消県民交流フェア2012」が親水広場(富岩運河環水公園東側広場)で開催され、朝からの雨にもかかわらず、約7,000人の来場者でにぎわいました。33の企業・団体が出店した農産物直売コーナー等では、県産野菜を活用した惣菜、高岡産大豆を使ったパン、県産米粉を練り込んだイン

スタントラーメンなどが販売されました。なかでも「プロが考えた県産野菜・果実メニュー」の発表会と試食は注目度が高く、和・洋の各200食が用意された試食メニューは、わずか10分程でなくなる人気ぶりでした。またポルファートとやまでシンポジウムが開かれ、俳優でタレントの阿藤快さんの講演や、県内で地産地消に積極的に取り組む企業・団体の事例発表がありました。



農産物直売&地域資源等新商品展示



▲フェアでは各ブースを見て回り、実際に手にとって試食する石井知事。地域の特産品を加工した逸品が揃いました。

生産者から熱心に話を聞く家族連れ。食にこだわる人達でフェアは賑いをみせた。▶



◀阿藤快さんが飛び入りで来場し、「プロが考えた県産野菜・果実メニュー」となみ玉葱黒米塩麹、塩味の野菜ケーキ風を来場者にアピール。

とやま地産地消シンポジウム2012

基調講演

演題 **ぶらり「快」的とやまの旅~熱き人々、食との出会い~**

講師 **阿藤快氏** [俳優・タレント]

1946年生まれ、神奈川県出身。ドラマ・バラエティ・ラジオ・舞台・映画等に出演。また、旅・グルメ番組などのレポーターとして全国各地を訪れる等、多方面で活躍中。



俳優・タレントの阿藤快氏による基調講演がおこなわれました。グルメ番組や旅番組などで、何度も富山に来たことがあり、海の幸を絶賛。今回の来県では、山田村のりんごジュースなどを例に「県民のみなさんが日頃から旨いものを食べているのが羨ましい」と語り、地産地消の取り組みについて、「パンフレットをしっかりと作って力を入れている県は少ない」「ブランド化をもっと進めてほしい」と応援のコメント。他県のエピソードを交えながら、マイク片手に身振り手振り楽しいトークを展開していました。

事例発表



地域食材利用組織
「メルヘンの街おやべ発!」
地域密着型学校給食
窪田潤子氏
[小矢部市学校給食センター
栄養教諭]



農工商連携事業者
「食と農の未来を考えた飲料」
松本幸司氏
[株式会社マナーハウス
事業開発部長]

地産地消「とやまの旬」応援団を大募集

富山県では、地産地消を県民ぐるみの幅広い運動としていくため、地産地消に取り組む企業、団体、個人を「とやまの旬」応援団として募集しています。登録者数(平成24年8月31日現在)個人...1,777名/企業・団体...1089社/団体

登録するとこんな特典があるよ!

- ① イベントや農業体験活動の情報を提供
- ② 応援団員の情報や活動内容をホームページ等で紹介
- ③ 応援団の提案活動に対し10万円を限度に支援

※平成24年度の提案活動支援事業の応募は終了しました。



応募方法/下記のホームページからダウンロードし、必要事項を明記のうえ、郵送・ファックスまたはメールでご応募ください。
富山県農産食品課のブランド推進班

Tel/076-444-3271 Fax/076-444-4410
E-mail/chisanchisho@esp.pref.toyama.lg.jp
URL/http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1613/

県産品が当たる! 県産品購入ポイント制度 スタート

10月6日(土)から、県産品を購入してシールを集めて応募すると、抽選で450名に県産品が当たるポイント制度が実施されます。応募方法は、食品スーパーなどで購入した青果、肉、鮮魚等に貼ってある「地産地消」や「プライスラベル」のシールを集め、応募用紙に貼って投函していただけます。たくさんのご応募をお待ちしています。

- 実施期間/10月6日(土)~11月18日(日)
(郵送は県農産食品課へ11月21日(水)当日消印有効)
- 対象品目/米、野菜、果実、肉、魚、加工食品、花・球根
- 応募方法/商品に貼り付けてある県産品表示シールやプライスラベルを10枚1口とし、各店舗に備えた応募用紙に貼った上、応募箱に投函
- 実施場所/県内の食品スーパーマーケット、青果店、百貨店、加工食品製造直売所、農産物直売所

●主なシール



▲地産地消シール



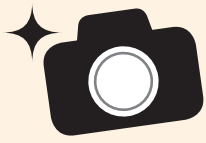
▲とやまポーク



▲Eマーク



▲プライスラベル



富山県農村振興技術連盟写真展 「とやまの農業農村整備」のご案内

富山県農村振興技術連盟では、県内で実施している農業農村整備事業の最前線である現場状況や、地域の大切な財産として守り受け継がれている用水路やため池等の土地改良施設の紹介、本県職員による東日本大震災の復興支援状況など、農業農村整備事業の役割と県内の関係技術者の取り組み状況等を広くPRするため、下記のとおり写真展を開催します。日頃皆さんが目にする機会が少ない写真も数多く展示しています。お近くの会場で展示の際には、お誘い合わせのうえ、是非ご覧ください。

1 展示日程・会場(予定)

- 県民会館ギャラリーC
平成25年1月25日(金)～1月27日(日)
- 富山総合庁舎
平成25年1月28日(月)～2月1日(金)
- 魚津総合庁舎
平成25年2月4日(月)～2月8日(金)
- 高岡総合庁舎
平成25年2月12日(火)～2月15日(金)
- となみ散居村ミュージアム
平成25年2月18日(月)～2月24日(日)
- 富山県土地改良団体連合会
平成25年2月25日(月)～3月1日(金)

2 展示内容

- 農業農村整備事業の役割や農業土木技術を紹介
 - ・用排水路、ダム、ため池、頭首工、ほ場整備された水田などの農業農村整備事業によって整備された施設や工事中の現場
 - ・地域の財産として守り受け継がれている歴史的な施設
- 集中豪雨などによる災害現場や復旧の状況
- 東日本大震災の復興支援状況(特別展示) など



※H24年度から、作品の一般募集を行わないこととしました。※県民会館での展示の際には、印象に残った写真に投票してもらう取組みも予定しています。

表紙の 写真



◀おすすめメニュー「2種盛り弁当」は十割、二八そばに季節の天ぷら、デザートがついています。

富山市山田清水にある「清水そば そば峠」。店長の山藤エミ子さんは、「山里の素朴さを大切にしたい、おいしい蕎麦を振るまいたいんです」とにこやかに語ってくれました。

地域おこしの一環として4人で手打ちそばを始めたものの、わずか24世帯ほどの清水の集落で始める不安や、お店の営業に慣れない所もあり、試行錯誤の毎日。でも「お客様が喜んでくれたのが嬉しくて」と続けて、気がつけばもう8年目に。今では従業員7人、毎日お客様が列をなして押し寄せるほどの人気店となった。

地元産のそば粉を使った定番の「十割そば」、「二八そば」の他、甘酒とそば粉をバランスよくおりませた「峠のまんじゅう」など、山の恵みを存分堪能できる。

□本誌に関するご要望、ご意見等をお寄せください。住所、氏名、年齢、職業のご記入をお忘れなく。個人情報については、内容確認以外に使用いたしません。

□本誌の内容が富山県ホームページでもご覧になれます。<http://www.pref.toyama.jp/>

第30号 平成24年10月

この冊子は、富山県農村環境創造基金ならびに富山県棚田地域水と土保全基金で発行されています。

発行

富山県 富山県農林水産部農村振興課

〒930-8501 富山市新総曲輪1番7号
TEL 076-444-3381 FAX 076-444-4427
富山県農村環境創造基金 <http://www.pref.toyama.jp/sections/1605/noukan/index.html>
とやま棚田ネットワーク <http://www.taiff.or.jp/tanada/tanada.htm>

編集



公益社団法人富山県農林水産公社

〒930-0096 富山市舟橋北町4番19号
TEL 076-441-7398 FAX 076-444-3851
<http://www.taiff.or.jp>

この冊子は再生紙を使用しています。